

上位の施策名称	施策Ⅱ-5-5 農山漁村の多面的機能の維持・発揮
---------	-----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農業経営課長 栗原 一郎	電話番号	0852-22-5392
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	中山間地域等直接支払事業
目的	(1) 対象 中山間地域等の集落等 (2) 意図 農業生産活動等を通じて農地が適切に管理されることにより、中山間地域の農地が持つ多面的機能の維持と集落等の活性化を図る。
事業概要	中山間地域等において、農業生産活動等の維持を通じて多面的機能を確保することを目的に実施。 特定農山村地域、山村振興地域等の対象地域内の農用地において、集落協定または個別協定に基づき、5年以上継続して農業生産活動を行う農業者等に対して交付金を交付。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	協定締結面積	目標値	13,300.0	13,300.0	13,300.0	13,300.0	ha
	式・定義	協定締結面積	取組目標値					
			実績値	12,597.0				
			達成率	94.8	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,404,044	1,463,633
うち一般財源 (千円)	463,858	480,302

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

県内19市町村で取り組み、全体で12,597ha実施。
平成27年度は、第4期対策の初年度であり、過去の対策期切換年度においては協定数が大幅に減少しているが、今回は、市町村と連携して集落間の統合や連携調整を担う人材配置を支援するなどし、協定数の実質的な減少を抑えることができた。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

12,597haで耕作放棄地の発生防止、水路・農道等の維持管理、農作業の共同化等、農地・多面的機能維持に向けた取組みが実施された。
平成27年度は、第4期対策の初年度であり、過去の対策期切換年度においては協定数が大幅に減少しているが、今回は市町村と連携して集落間の統合や連携調整を担う人材配置を支援するなどし、協定数の実質的な減少を抑えることができた。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
平成27年度より第4期対策に移行し、協定数の実質的な減少は一定程度抑えることができたが、高齢化等により協定数・協定農用地は減少。
- ②困っている状況が発生している「原因」
生産者の高齢化等により営農継続や共同活動が困難になり、制度自体に取り組みない集落が発生。
- ③原因を解消するための「課題」
他集落との統合や連携など集落協定の広域化の推進。
遡及返還の要件緩和に対応した集落戦略の策定と他集落との統合の推進。
他集落との統合や連携調整を担う人材の配置。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むかの考え方)

近隣集落との統合や連携など集落協定の広域化を推進することで、集落協定が維持・増加するよう取り組む。
遡及返還の要件緩和に対応した集落戦略の策定と他集落との統合の推進を図る。
他集落との統合や連携調整を担う人材の配置を推進する。

9. 追加評価(任意記載)

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。